

# [1] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催準備

250

## (1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の日程の検討と決定

■2013年映画祭の開催結果を踏まえ、「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015」開催日程についての検討を行った。その結果、10月の三連休を据えた10月8日〔木〕から10月15日〔木〕というスケジュールによって行うことが決定された。

開催日程	開催内容
10月8日〔木〕	開会式（オープニング上映）
10月9日〔金〕	作品上映スタート
10月10日〔土〕	本上映 3連休1日目
10月11日〔日〕	本上映 3連休2日目
10月12日〔月・祝〕	本上映 3連休3日目
10月13日〔火〕	本上映
10月14日〔水〕	本上映 + 授賞式（クロージング上映）
10月15日〔木〕	受賞作一挙上映（アンコール上映）

## (2) 開催会場の検討

■スクリーン設置数とこれまでの集客人数、運営効率および2013年開催時に集計したアンケートによる観客の声を考慮し、上映会場の検討を行った。その結果、プログラム分量、徒歩による移動が容易であること、山形市街地の周遊を喚起することなどから、前回の2013年開催時と同様、山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館をメイン会場とすることが最適と判断した。この他、シンポジウム当の関連企画の会場として、山形まなび館、東北芸術工科大学、山形大学などを視野に入れ、引き続き検討を行っていく予定である。

### 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 上映会場

山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、他

## (3) 企画検討と調査研究

■下記の企画について検討および調査研究、準備を行った。現在も引き続き行っている。

### ① インターナショナル・コンペティション

公募により作品を集め、有識者および市民で構成される選考委員会による選考を経て、上映作品15本を選出。コンペティション形式で上映する。開催時は国際審査員により大賞（ロバート&フランシス・フラハティ賞）をはじめ、4つの賞が授与される。

### ② アジア千波万波

アジアの新進ドキュメンタリー作家の作品を紹介し、応援するプログラム。最も今後が期待される作品には、小川紳介監督の精神を受け継いで設置された小川紳介賞が授与される。

### ③特別招待作品

ドキュメンタリー映画の巨匠監督の最新作や審査員の作品等、話題作を紹介するプログラム。

### ④スペシャル・プログラム

#### ◇ラテン・アメリカ特集

YIDFF 2011 での「シマ／島、いま——キューバから・が・に・を見る」特集を踏まえ、キューバのドキュメンタリー制作を考える上で欠かすことのできないラテンアメリカに関するドキュメンタリーを紹介するプログラム。日本であまり紹介されることがなく、現在アジアに呼応するようにドキュメンタリー制作が活況を帯びている現状にも触れ、60年代の cine nuevo のラテンアメリカ・ドキュメンタリーの連帯の状況から現在を俯瞰し、ラテンアメリカを糸口に今後のドキュメンタリーの可能性を探る。関連イベントとして、音楽やパフォーマンスのプログラムも視野に入れている。

#### ◇映画を問う、ドキュメンタリーを問う

映画史、映画監督について、俳優について、その他さまざまなテーマで作られてきた“映画に関する”ドキュメンタリーを、ある視点から見つめることにより、私たちにとって、世界にとって映画とは何か？そしてドキュメンタリーとは何なのか？ ドキュメンタリー映画の原点を探る試み。

#### ◇〈アラブの春〉のその後

YIDFF 2013 にて行った、2010年12月以降のアラブ世界で起こった前例のない大規模反政府デモや抗議活動を扱った作品を上映した〈アラブの春〉特集。同時代の世界の動きを映し出す映画を紹介するプログラムとして、その後も激動が続いている中東アラブ世界に引き続き焦点をあて、その状況、要因を追及する。

#### ◇日本プログラム

最近の日本ドキュメンタリーのさまざまな様相を提示し、作家たち同士、そして観客との交流の場を創出するプログラム。

#### ◇やまがたと映画

四半世紀に渡ってドキュメンタリー映画を世界に向けて発信し続けてきた“やまがた”。埋もれた記録映像の数々から、時代性や地域性など、多角的に“やまがた”を再発見する企画、山形に学んだ若き映像作家たちの渾身作、その最前線を見せる企画など、“やまがた”が映画・映像分野において担ってきたさまざまな活動を凝縮して総括的に体感することができるプログラム。

#### ◇ともにある Cinema with Us

東日本大震災、それにともなう原発事故という未曾有の体験と、そこから生まれ続ける課題を改めて見つめ伝えていくプログラム。映画・映像に何が出来るのかを問い、YIDFF 2011 からスタートしたプロジェクトを継続・深化させる。

#### ◇その他

その他、ワークショップ、各種シンポジウム、トークセッションを予定。

## ⑤関連企画

- ◇映画祭開会式、歓迎レセプション、授賞式、さよならパーティー
- ◇香味庵クラブ（市民と映画関係者の交流の場）
- ◇映画祭デイリーニュースの発行
- ◇ゲスト観光ツアー（山寺）
- ◇他団体との協力・共催企画

## (4) 作品募集・受付業務

### ◇作品募集のための規約、募集用紙の作成、配布（国内外）

■作品募集呼びかけのため、ポスター、ポストカードの作成、配布（国内外）を行った。応募形態がオンラインエントリーにほぼ移行していることを受け、今回は規約用紙を作成せず、ポストカードを増刷し、インターネット上での規約参照、応募登録を促した。

### ●制作部数

ポスター **1,000枚**（前回同数）

ポストカード **10,000枚**（前回5,000部）

規約 **なし**（前回2,500部）

※尚、規約用紙を作成しなかったことによる弊害は確認されていない。

### ●送付先

海外 **1,132件**（前回比96.4%）

国内 **2,179件**（前回比106.3%）

国内送付先：映画制作者、配給会社、製作会社、テレビ局、新聞社、映画祭、駐日大使館、映像関係機関・施設、映像関係教育機関（大学、専門学校）など。

### ●インターネット版

YIDFF公式サイト>YIDFF 2015 情報>作品募集>規約>オンライン応募用紙>応募Q&A

サイトURL：<http://www.yidff.jp/2015/entry/15entry.html>



YIDFF 2015 作品募集ポスター

### 作品募集ポスターデザイン

■YIDFF 2015 作品募集ポスターのデザインは東北芸術工科大学に学生コンペを依頼。理事会による選考の結果、グラフィックデザイン学科3年生の鶴岡季歩さんのデザインに決定し、ポスター1,000枚を印刷。ポストカードにも展開し、国内外に発送し、作品募集について周知した。



作品募集ポスター発表記者会見の様子



コンセプトを説明する鶴岡季歩さん

◇問合せへの対応（電話、FAX、email） ◇応募作品の受付、分類作業

◇応募作品のシノプシス翻訳、データベース入力作業

■世界中からドキュメンタリー映画の秀作を集めて上映するため、応募規約に基づき、平成26年9月1日から募集・受付業務を行った。現在も継続して行っている。応募件数（平成27年3月末現在）は次のとおり。

	応募件数 (平成27年3月末現在)	前回比	前回2013の最終応募件数
インターナショナル・コンペティション (縮切：平成27年4月15日当日消印有効)	893	101.5%	1,153件
アジア千波万波 (縮切：平成27年5月15日当日消印有効)	290	135.5%	608件

■応募に関して、電話、emailにて問合せ対応を行った。送られてきた作品については、分類、ナンバリングを行い、シノプシスの翻訳、データベース入力作業を行った。現在も継続して行っている。

## (5) 作品選考業務

### ◇コンペティション選考委員会の設置と選考

#### □インターナショナル・コンペティション部門

#### ●選考委員

山形側選考委員5名（山形市民、正会員、山形事務局）

東京側選考委員5名（映画評論家、映画研究者、東京事務局）

■上記、計10名の選考委員会を組織し、インターナショナル・コンペティション部門上映15作品を決定する作品選考を行っている。応募された全ての作品について、1作品につき最低2名が試写を行い、選考の俎上に上げられた作品については、選考委員全員が試写を行う。選考においては必ず最後まで作品を視聴し、早送り等は一切行わないことが原則。選考委員1名につき、およそ200～300作品の視聴を行う。選考委員の他、山形及び東京のアドバイザーがそれぞれの応募作品を視聴し、評価コメントを提出する作品予備選考を行っている。選考は現在も継続中である。

#### ●選考会議開催状況

3月8日〔日〕東京事務局（東京都新宿区愛住町）にて第1回選考会議を開催。

第2回は5月10日〔日〕東京事務局にて、最終選考会議は6月13日〔土〕に山形事務局にて開催予定。最終選考会議においてインターナショナル・コンペティション上映15作品が決定する。

#### □アジア千波万波部門

#### ●選考委員

■山形事務局1名、東京事務局2名によってアジア千波万波部門上映作品を決定する選考を行っている。選考方法はインターナショナル・コンペティション部門と同様。選考は現在も継続中である。

#### ●選考会議開催状況

数回の選考会議を経て、6月末に上映作品を決定する予定である。



## (6) 広報宣伝活動

■映画祭に対する関心や期待、参加意識を高めるために、広報宣伝活動を展開した。

### プレイベントの開催

■映画祭 2015 の開催を広く知らしめることを目的としてプレイベントを開催した。

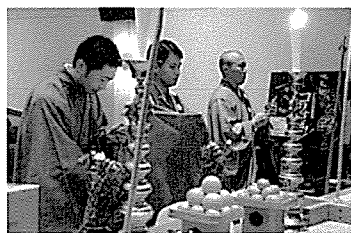


### 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 プレイベント 1 怪異の表象 ～フェイク・ドキュメンタリーを楽しむ～

開催日：2014年9月5日【金】 6日【土】 7日【日】

会場：ソラリス

上映作品数：6作品 入場者数：371人



真言密教僧4人の法力でお祓い



それぞれの役で登場のお三方



じゃんけん大会に満席の会場が揺れる

■フェイク・ドキュメンタリーとして若者を中心に絶大な人気を誇るホラーシリーズ『戦慄怪奇ファイル コワすぎ!』を3日間にわたり全作一挙に上映した。納涼夏祭りのようなニュアンスのもと、映画祭への新規客層開拓を目指したものである。最終日には、シリーズの監督を務めた白石晃士監督と主演俳優二人を招き、トークショーを行った。本企画では山形市在住の怪談作家黒木あるじ氏を中心として、怪談・怪奇幻想好きの市民が集い、アイデアを出し合いながら一緒になって企画展開する仕掛けを組むことができた。これにより、これまで映画祭に足を運んだことがない、あるいは全く知らなかったという10代から30代の若者を巻き込み、集客を上げる結果となった。



### 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 プレイベント 2

喜劇大行進 2日間まるっと名作映画 共催：山形市中央公民館

開催日：2014年9月13日【土】 14日【日】

会場：山形市中央公民館（アズ七日町）6Fホール

上映作品数：4作品 入場者数：863人



さあさあ喜劇映画のお通りだよ



お昼を挟んで第2ラウンドの開始です



映写機の懐かしい響きを聞きながら

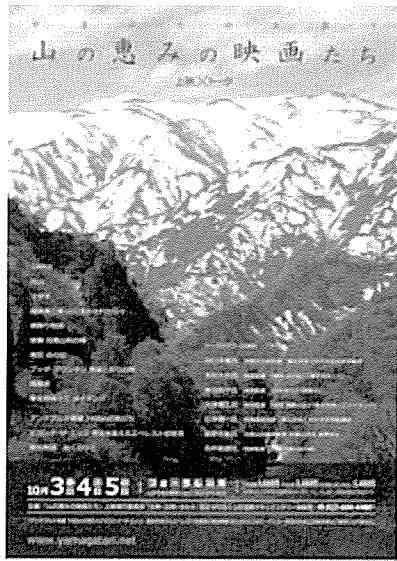
■映画祭のメイン会場である山形市中央公民館と共催で喜劇映画の名作を4作品上映した。文化庁の「優秀映画鑑賞推進事業」によるもので、山形市中央公民館との共催は今回で2回目となる。作品が伴淳三郎やフランキー堺、森繁久彌など往年の名喜劇俳優たちの競演ということもあり、高齢者を中心とした多くの観客を集めた。アンケートでは本企画の継続を望む声が多く、映画祭周知の効果も考慮し、次年度もプレイベントとして継続開催を計画している。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 プレイベント 3  
 やまがたの山語り 山の恵みの映画たち

開催日：2014年10月3日 [金] 4日 [土] 5日 [日]

会場：フォーラム山形

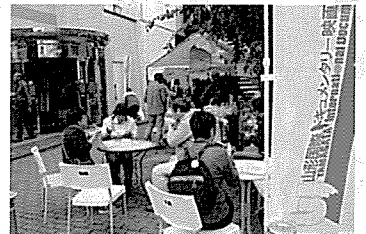
上映作品数：9作品 入場者数：1,189人



満員御礼!



市民ボランティアの皆さん!



外では芋煮のおふるまいも!

■山文化を巡る特集上映とトークによって構成された「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち」を開催した。山に抱かれた山形で豊かな山文化に触れる特集には多くの参加者があり、県内はもちろん、遠く神戸や新潟からの参加もあった。大変好評を博し、第2弾の取り組みを望む声も多数上がっている。

企画内容

■上映作品とトークゲスト

『ブッダ・マウンテン』『劔岳 点の記』『映画「春を背負って」そこには何があったのか』

\*大澤嘉工監督&石寺健一氏トーク

『マタギ』『越後奥三面 山に生かされた日々』\*田口洋美氏トーク

『瀬降り物語』\*鈴木清氏トーク

『森聞き』\*柴田昌平監督&松井愛さんトーク

『修験 羽黒山秋の峰』\*北村皆雄監督&星野文紘氏トーク



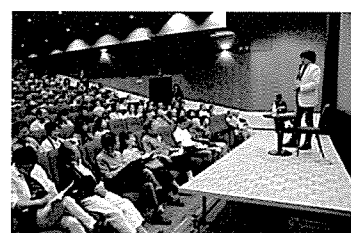
山での撮影の厳しさと喜びを語る



急遽、モンベル会長が乱入!



春を背負ってで披露したケーナの響き



満員の会場に驚く田口教授



狩猟文化研究の魅力満載のトーク



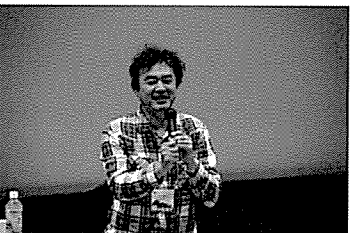
お手製ポスターと一緒に登場の鈴木さん



「猿の餌付けまでしてたんですよ!」



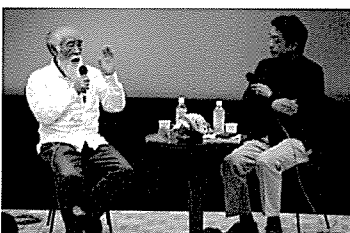
映画ひめゆりが繋いだ二人の縁



森の達人の言葉に高校生たちの反応は?



山伏の鎮魂のほら貝の神聖なる響き



「必要なのは野生を取り戻すこと」



被災者に向け般若心経、そして合掌

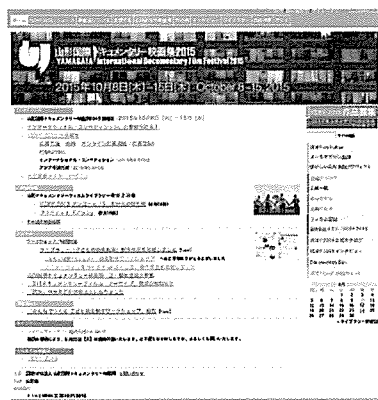
## ポスター・チラシの製作・設置

■映画祭の開催告知および作品募集については(4)作品募集・受付業務で述べたとおり。また3つのイベント(「怪異の表象～フェイク・ドキュメンタリーを楽しむ～」 「喜劇大行進 2日間まるっと名作映画」 「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち」)や「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブシンポジウム」、「こどもシネマテーク」「こどもワークショップ」などの宣伝チラシにおいて「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015」開催告知を掲載し、周知に努めた。詳細は以下のとおり。

上映企画等チラシ	配布部数
「怪異の表象～フェイクドキュメンタリーを楽しむ～」チラシ	4,500部
「喜劇大行進 2日間まるっと名作映画」チラシ	6,000部
「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち」チラシ	9,000部
「100年後、映画は震災のなにを残し、伝えられるのか」チラシ	1,000部
「こどもシネマテーク&ワークショップ」チラシ	23,000部
「アニメーションをつくろう」チラシ	600部

## 公式ウェブサイト及びメールマガジン等、インターネットを利用した広報活動

■公式ウェブサイトでは週一回の更新ペースで最新情報を掲載。不特定多数の方に山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催と日常的活動をPRし、周知に努めた。また、メール配信システムによる『YIDFFニュース』を日本語版、英語版の2パターン制作し、月一回定期配信、海外の映画祭事情などの面白コラムと共に映画祭情報希望者に提供した。その他、Twitterによる双方向情報発信システムを活用し、PRに努めた。YIDFF 2013 開催時に開設した公式ブログは、開催期間のリアルタイムによる情報発信のためのものであったため、今年度は休止した。2015年9月より再稼働予定である。



過去の開催状況を網羅したデータベース

YIDFFオフィシャルサイト [URL: [www.yidff.jp](http://www.yidff.jp)]

### 【アクセス解析】

期間：2014年4月から2015年3月まで (12ヶ月)

訪問者 **193,669人** (前年比 83.3%)

閲覧されたページ数 **2,587,713件** (前年比 92.3%)

画像等を含めた閲覧数 **4,684,397件** (前年比 66.7%)

メールマガジン『YIDFFニュース』月1回発行 (日本語版、英語版)

■多種多様な上映会情報に加え、人気コーナー「事務局より」では関係識者によるコラムなども掲載。その他トピック記事などを配信した。

【実登録者数】 ※2015年3月現在

日本語版 **2,357人** (前年比 101.6%)

英語版 **2,145人** (前年比 102.6%)

映画祭の最新情報がお手軽に受け取れる



## ボランティアメールマガジン『ボラマガ!』月1回発行

日本語版のみ

437人

(前年比 87.8%)



### YIDFF公式Twitter

■リアルタイムな情報発信を可能にするミニブログ。上映情報の発信などで、当日の集客に結びつく成果を上げた。また上映企画単体のアカウントも立ち上げ、緻密な広報を行った。

フォロワー数 **5,751**人 (前年比 118.7%)

※フォロワー=登録者

## 映画祭情報紙『ドキュやま!』の発行

■主に金曜上映会情報などを掲載する映画祭情報紙『ドキュやま!』を制作した。山形市内を中心とした県内各所に配布。市民への情報告知ならびに映画祭の認知度アップを図ることを目的としている。今年度は主催イベント上映や子どもワークショップなどの事後報告を、躍動感のある写真と文章で紹介し、日常的に行っている映像文化振興活動を広く知ってもらおう工夫を行った。市内の飲食店や書店などの協力により、各店舗に設置していることから、映画ファンのみならず、これまで映画祭に足を運んだことのない一般市民に対しても広く情報を発信できる媒体となっている。

判型：A4サイズ四つ折り 発行：年間6回（偶数月1日）

部数：各回7,000部配布（年間42,000部配布）



## パブリシティの設定

■国内外および山形県内のマスコミ各社に対して、映画祭開催に関する情報や注目トピックについて情報を発信した。主にプレス・リリースという形により、記事として取り上げてもらえるように営業活動を展開。加えて、作品募集ポスターデザイン発表などの重要事項については記者会見を行った。これらの活動により、新聞・雑誌記事、テレビ・ウェブニュースとして露出を果たした。

記事露出件数 **43**件 (前年比27.8%)

### 【記者会見の開催】

◇作品募集ポスターデザイン発表記者会見

【8月18日 会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー】



□記事露出一覧

掲載日	掲載紙	記事見出し
2014年		
5月13日	山形新聞	復興支援助成YIDFFに 企業メセナ協
5月19日	山形新聞	創造都市ネット加盟めざす ドキュメンタリー映画祭総会 協議会設立へ
7月8日	読売新聞	大震災映画データベース化 映画祭主催 山形のNPO
7月22日	山形新聞	映画制作に挑戦 山形で来月、ワークショップ 中学生募る
7月22日	朝日新聞	映画作り体験しよう 中学生対象にワークショップ 山辺で来月5・6日
8月16日	山形新聞	怪奇現象映像ゾクゾク上映、口裂け女、トイレの花子さん、河童… 山形、来月5日から「納涼コワすぎ!まつり」
8月19日	山形新聞	生活感や物語性を表現 山形国際ドキュメンタリー映画祭 芸工大生デザイン作品募集ポスター発表
8月19日	毎日新聞	来年の作品募集ポスター初公開 山形国際映画祭 来年の開催は10月8日～15日
8月19日	日本経済新聞	山形国際映画祭 次回来年10月 21歳学生がポスター
8月26日	山形新聞	「コワすぎ!まつり」どうか無事に… 山形・上映イベント前に法要
8月26日	朝日新聞	「コワすぎ」映画 安全と成功祈願 山形の映画館
8月26日	毎日新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭 映画館内でお経 プレイメント成功祈願法要
8月27日	朝日新聞	人々の生の声や姿マンションの光で表現 山形国際ドキュメンタリー映画祭ポスター完成 仙台の鶴岡さん作品
9月1日	朝日新聞	山の映画特集面白山でPR 山形国際映画祭
9月5日	朝日新聞	住めば、映画の都 移動映写 人と出会う旅 [高橋事務局連載]
9月20日	読売新聞	山テーマに映画9本上映 山形で来月 トークショーも予定
9月21日	山形新聞	山の魅力を再発見 山形国際ドキュメンタリー映画祭プレイメント 山形で来月 9作上映、ゲストトーク
9月29日	山形新聞	山の映画 魅せられた人々① 「瀬降り物語」の助監督 鈴木清さん (尾花沢) 何でも屋 猿の餌付けも
9月30日	山形新聞	山の映画 魅せられた人々② 「劔岳 点の記」「春を背負って」の録音技師 石寺健一さん (酒田) 自然の音求めどこまでも
10月1日	山形新聞	山の映画 魅せられた人々③ 狩猟文化研究者、東北芸術工科大学教授 田口洋美さん (山形) 三面 (新潟) で始まった人生
10月2日	山形新聞	山の映画 魅せられた人々④ 羽黒山伏 星野文紘さん (鶴岡) 修行で野生を取り戻す
10月2日	山形新聞	社説 あすから「山の恵みの映画たち」 生活の文化 考える好機
10月2日	朝日新聞	映画で「創造都市」に 山形市 ユネスコ登録めざす 記録映画祭、話題作ロケ…雇用との連動も
10月3日	山形新聞	映画「劔岳 点の記」「春を背負って」木村大作監督が芸工大 (山形) で講義 黒沢映画の経験 今に
10月4日	山形新聞	「山の恵みの映画たち」開幕 撮影の苦労、熱気語る 「春を背負って」録音技師の石寺さん (酒田) ら
10月24日	朝日新聞	住めば、映画の都 市民200人が育てた「種」 [高橋事務局長連載]

掲載日	掲載紙	記事見出し
10月31日	朝日新聞	住めば、映画の都 新しい映画教室 今こそ [高橋事務局長連載]
11月13日	山形新聞	つくろう 映画の都 山形市や大学「プロジェクト」でタッグ 上映、ワークショップ 子どもにもっと身近に
11月15日	河北新報	NPO山形国際映画祭 アーカイブ開設 震災、原発事故 後世にドキュメンタリーは超える時を国を
11月15日	河北新報	東北芸工大で29日にシンポ
11月26日	山形新聞	震災記録映画 未来に伝える 山形国際ドキュメンタリー映画祭「311アーカイブ」開設 作品収集、データウェブで公開
11月28日	朝日新聞	子どもに味ある映画 NPOや2大学など連携 上映会やワークショップ
11月28日	朝日新聞	住めば、映画の都 避難所で「寅さん」上映 [高橋事務局長連載]
11月30日	山形新聞	311フィルム・アーカイブ開設記念 山形でシンポ 記録映画残す意義は
12月22日	読売新聞	大震災記録映画HPに作品情報 NPO法人 60作のロケ地、撮影時期
12月22日	山形新聞	やまがたニュース解説 山形国際ドキュメンタリー映画祭 311フィルム・アーカイブ 震災映画 情報を一元化 長期保存に課題、作業手探り
2015年		
1月18日	読売新聞	ひととき 山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局員 畑あゆみさん 震災記録映像 残す使命感
1月22日	山形新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2部門に665作品応募 中間集計
2月4日	山形新聞	子どもたちの映画作り 「大人は一切口を出さない」 愛情と信頼伝わる演出
3月8日	山形新聞	小中高生が映画づくり 山形 富樫監督(鶴岡出身) 講師、上映へ
3月20日	朝日新聞	住めば、映画の都 牧野の地で交わり繋がる [高橋事務局長連載]
3月23日	読売新聞	子どもたち制作 映画上映 山形で4作品 プロが絶賛も
3月24日	山形新聞	いろんな「丸」を撮影 山形 小中学生、アニメ作り挑戦

## その他の広報宣伝活動

### ラジオ出演

■各ラジオ局の番組内に山形国際ドキュメンタリー映画祭の専門コーナーを設け、事務局員が出演する形で映画祭の紹介を行った。

#### 【ラジオ・モンスター】

- 毎月第1木曜日 午後1時 「Mon-brun モンブラン」内  
「ドキュメンタリーでドキュドキュ」コーナー出演 (約15~20分)

内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

#### 【Vigo-FM 78.8MHz】

- 毎月第2第4木曜日 午前10時10分 「Vigorus-Mornin'」内  
「ドキュメンタリーの小窓」コーナー出演 (約10分)

内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報



## [2] 上映会・鑑賞会推進

### (1) 市民・県民の様々な年代層に対する、所蔵作品を中心とした鑑賞機会の創出

#### 金曜上映会

■山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを会場とし、映画祭所蔵作品を始め、一般的には鑑賞機会が少ない作品の上映を行い、市民県民に対して貴重な映像に親しむ機会を設けた。また、金曜上映会特別版としてゲストを招いたトーク付き上映なども行った。会員登録は無料。

□月2回金曜 計24回開催

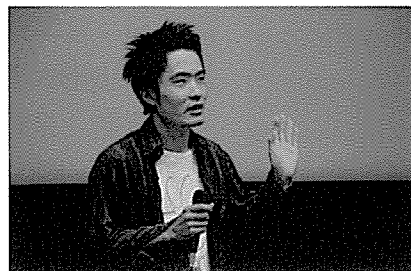
年間入場者数 **850人** (前年比 142.6%)

会員数 **274人** (新規156人)

開催日	タイトル・上映作品	入場者数
4月11日	〈YIDFF 2013 アンコール 8：扉をたたいて〉 上映作品『サンティアゴの扉』『アルバト通りの家』	37人
4月25日	〈YIDFF 2013 アンコール 9：キューバ・リブレ!〉 上映作品『祖国か死か』『ノーボディ・リスンド』	34人
5月9日	〈フィルムのなかのやまがた〉 上映作品『開けゆく峠路』『笹谷トンネル』『広報ニュースNo.7』『わらし子とおっかあたち』	27人
5月23日	〈YIDFF 2013 アンコール 10：家族のかけら〉 上映作品『家族のかけら』『母がクリスマスに帰るとき…』	37人
6月20日	〈アメリカを撃つ—孤高の映画作家ロバート・クレイマー 1〉 上映作品『アイス』	30人
6月27日	〈アメリカを撃つ—孤高の映画作家ロバート・クレイマー 2〉 上映作品『マイルストーンズ』『プレントーク&コモンセンス』	32人
7月11日	〈フィルムのなかのやまがた：いざ蔵王へ!〉 上映作品『日本の詩情 樹氷と湯花』『蔵王はまねく』『広報映画No.9』『蔵王の詩 赤いスキー』 ※ゲストとして「じゅっきー君」来場	36人
7月25日	〈オーロラの光、氷の夢〉 上映作品『ピクチャー・オブ・ライト』『氷の夢』	41人
8月8日	〈土本典昭傑作選 1〉 上映作品『水俣一揆—一生を問う人々』	33人
8月22日	〈土本典昭傑作選 2〉 上映作品『不知火海』	28人
9月12日	〈1930年代クラシックス：戦時大陸記録映画〉 上映作品『秘境熱河（一部）』『娘々廟會（にゃんにゃんめやをほい）』『北京』	45人
9月26日	〈YIDFF 2013 ともにある Cinema with Us より〉 上映作品『沿岸部の風景』 ※鈴木監督来場。上映後、トークを行った。	36人



満員状態の試写室

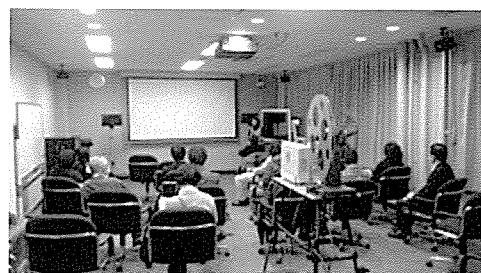


観客からの質問に答える鈴木監督

10月10日	〈カンボジアの証言 1〉 上映作品『さすらう者たちの地』『紙は余燼を包めない』	30人
10月24日	〈カンボジアの証言 2〉 上映作品『S21 クメール・ルージュの虐殺者たち』『アンコールの人々』	46人
11月14日	〈ヤマガタから生まれる映像作家たち：佐藤広一監督と仲間たち 1〉 上映作品『School Days ～ボクはこんなだった～』『Load』 ※2作品の撮影を務めた佐藤広一監督が来場。トークを行った。	27人
11月28日	〈ヤマガタから生まれる映像作家たち：東北芸術工科大学 1〉 上映作品『ドロセラ』他7作品	24人
12月12日	〈ヤマガタから生まれる映像作家たち：東北芸術工科大学 2〉 上映作品『夜とケイゴカー』『恋文X』 ※市川悠輔監督が来場。トークを行った。	26人
12月19日	〈ヤマガタから生まれる映像作家たち：佐藤広一監督と仲間たち 2〉 上映作品『透視せよ！ タケオ』『Wild Nights Next』『まちのひかり』 ※佐藤広一監督が来場。トークを行った。	44人
1月9日	〈映画生誕120年〉 上映作品『生まれなかった映画たち』『稲妻の証言』	21人
1月23日	〈YIDFF 2013 アンコール11：境界にて〉 上映作品『空低く 大地高し』『川の抱擁』	40人
2月14日	〈8ミリを生き抜く〉[会場]山形まなび館交流ルーム7(シアター) 上映作品『GoodBy LAB』より8作品、『サヴァイヴァル8』より13作品 ※8mm映写機、音響装置を持ち込んで上映。出品作家の川口肇、黄木可也子、黄木優寿が来場。 トークを行った。	59人
2月27日	〈カメラマン大津幸四郎を悼む〉山形まなび館交流ルーム7(シアター) 上映作品『圧殺の森 高崎経済大学闘争の記録』『日本解放戦線・三里塚の夏』 ※16mm映写機、音響装置を持ち込んで上映。	31人
3月13日	〈ともにある Cinema with Us 2013 より〉 上映作品『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』	31人
3月22日	〈こどもと映画〉 上映作品『こども映画制作ワークショップ作品』	45人

### 山形大学図書館上映（不定期）

■山形大学との協力関係のもと、学生、教職員、周辺住民を対象として映画祭所蔵作品の上映会を行った。昨年度の開催から時間を経ての上映会であったが、平常通りの集客があり、本上映会が定着してきていることをうかがわせた。上映後、作品解説を行った。



作品解説に聞き入る来場者たち

山形大学図書館上映会

『青年の海 四人の通信教育生たち』上映会

開催日：2015年1月28日【木】

会場：山形大学小白川図書館1Fシアタールーム

入場者数：21人

## 東日本大震災被災者を対象とした無料上映会

■東日本大震災で被災した方々に「映画」を無償で届ける活動を行った。当方を含む、趣旨に賛同した団体が構成する「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」として、福島県を山形県映画センターと共同で担当。大手配給会社の協力のもとで、『男はつらいよ』シリーズや『ポケットモンスター』シリーズなどの娯楽作品の上映会を開催した。

総入場者数 **3,445人**

上映会件数 **19件**



開催日	開催市町村	会場・上映作品	入場者数
4月26日	山形県山形市	山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 『こども映画ワークショップ』	11人
7月13日	福島県伊達市梁川町	梁川農村環境改善センター 『ドラえもん のび太の恐竜 2006』	136人
8月30日	福島県福島市飯坂	パレス飯坂駐車場 『機動警察パトレイバー the Movie 1&2』	1900人
9月4日	福島県南相馬市鹿島区	角川原応急仮設住宅集会所 『夢は牛のお医者さん』	30人
10月19日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『レ・ミゼラブル』	40人
10月21日	福島県桑折町	桑折駅前応急住宅第二集会所 『浪江市牛渡地区の昭和30年の映像』	42人
11月13日	福島県会津若松市	松長近隣公園仮設応急住宅第一集会所 『男はつらいよ 寅次郎相合い傘』	25人
11月13日	福島県会津若松市	扇町第一号公園応急仮設住宅集会所 『男はつらいよ 寅次郎相合い傘』	14人
11月15日	福島県伊達市梁川町	梁川小学校仮設校舎 『こども映画ワークショップ』	30人
11月23日	岩手県宮古市	三陸みらいシネマ 『味覚のレッスン』	24人
11月30日	福島県天栄村	文化の森てんえい 『こども映画ワークショップ』	11人
12月3日	福島県福島市	しのぶ台応急仮設住宅集会所 『浪江市牛渡地区の昭和30年の映像』	24人
12月6日	福島県郡山市	まざっせcafeW23 『こども映画ワークショップ』	30人
12月9日	宮城県石巻市網地島	長渡公民館 『ペコロスの母に会いに行く』	61人
2月15日	福島県南相馬市鹿島区	さくらホール 『劇場版ポケットモンスター 破壊の繭とディアンシー』	258人
2月28日	福島県相馬市	はまなす館 『劇場版ポケットモンスター 破壊の繭とディアンシー』	290人
3月4日	山形県天童市	天童市立図書館 『福島いきものの記録—異変—』	20人
3月11日	山形県米沢市	置賜文化ホール 『福島昭和30年代のアーカイブ映像』	484人
3月21日	福島県福島市	あずま総合運動公園 『超劇場版ケロロ軍曹 誕生！究極ケロロ』	15人

## (2) 青少年に対する映像教育の推進

### ◇若年層を中心とした上映会活動の実施

■若年層に映画の魅力を広く紹介する上映会を行った。ワークショップ活動と連結し、映画を「見る」こと「作る」ことの楽しさを通して、若年層へのメディア・リテラシー教育を展開した。今年度は山形市の「平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業」として「こどもと映画プロジェクト」と連携、東北芸術工科大学、山形大学と共に「こどもシネマテーク」を開催した。



平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業  
こどもと映画プロジェクト  
こどもシネマテーク

開催日：2014年11月23日【日】 12月14日【日】  
2015年2月8日【日】

会場：山形ビッグウイング 2F 大会議室

上映作品数：9作品 入場者数：313人

■子どもたちと豊かな映像文化を共有するため、山形市、東北芸術工科大学、山形大学と協働で取り組んだ「こどもシネマテーク」は、「多様な映画を子どもたちと共に観る！」をテーマに一連の上映会と講演会を実施した。



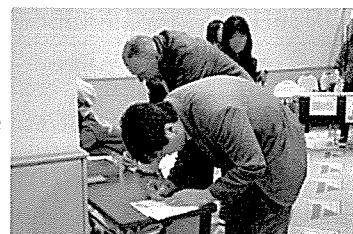
触ってみよう！ カメラと映写機



画が動くって、不思議だね



「へえー、ちっちゃい写真がいっぱいだ」



親御さんからも多くの感想が寄せられた

### ワークショップの実施

■次世代を担う子どもや親子を対象に映像制作ワークショップを行った。行政組織、大学機関、民間団体との連携をはかりながら、継続性のある企画として、重層的な事業内容を目指した。また「モノ」を作る喜びが心のケアに役立つという観点から、東日本大震災の復興支援としての側面も重視した。そのため開催資金は、多くの場合復興支援関連助成によるものとしている。



東日本大震災復興支援事業

フィルムにえを描こう！ 主催：山形県映画センター

後援：国際ロータリー第2800地区・山形西ロータリークラブ

開催日：2014年4月26日

会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

参加者数：12人（うち子ども5人）

■ロータリークラブの後援を受けた山形県映画センター主催のワークショップ。福島県から避難している方が対象。ライブラリー探検と映画の仕組み講座を行い、楽しんでいった。完成した作品はスクリーン撮りし、動画サイトにアップした。描いたフィルムは参加者が記念に持ち帰った。完成した動画：<http://youtube/rtTeOEyIBvk>

アニメーションをつくろう  
参加者募集

11月16日(日)  
12:30-14:30  
(12:00受付開始)

朝日座  
小中学生 先着15名  
500円(税込)

講師：船山寛子  
黄木可也子

## 一食 (いちじき) 福島復興・被災者支援事業 アニメーションをつくろう in ふくしま

■一食平和基金の助成を受け、福島県内4ヶ所、山形県内2ヶ所で映画のしくみミニ講座とコマドリ・アニメーションのワークショップを行った。講師として本映画祭と関わりのある映像作家を招き、地元団体や映画祭ボランティアの方と協力しながら開催した。

梁川小学校の参加者は珍しく全員男子。PTAの方も一緒になって楽しんだ。南相馬や郡山で行ったものについては、映画館や商店街に子どもの笑顔が戻ってきたということで、大人にも好評だった。まちづくりの視点からも評価が高かった。また聾者を対象にするのは初めてであったが、聾学校教員の皆さんの協力で楽しいワークショップとなった。

山形県内の2ヶ所に関しては参加者の年齢が低かったため映画講座は割愛したが、DVDが今年度いっぱい解散する福島からの避難者を受け入れていた団体の記念となり、喜ばれた。

開催日	タイトル	人数	共催・協力等
11月15日	アニメーションをつくろう at 梁川小 (伊達市)	7人	[共催] 梁川小学校PTA
11月16日	アニメーションをつくろう in 南相馬	4人	[共催] 朝日座を楽しむ会 [協力] うままつり実行委員会
12月6日	アニメーションをつくろう in 郡山	15人	[共催] 福島自主制作映像祭 [協力] (特活) まざっせKORIYAMA 商店街きらめき21研究会
12月15日	アニメーションをつくろう at 福島県立聾学校福島分校	6人	[共催] 福島県立聾学校福島分校
12月17日	アニメーションをつくろう at あいびい保育園 (山形市)	21人	[共催] あいびい保育園
3月25日	アニメーションをつくろう at 置賜総合文化センター (米沢市)	22人	[共催] 育児サロン ももりん (特活) やまがた育児サークルランド



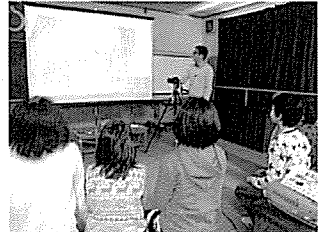
映画の力で飛ぶことだってできるんだ!



星の魔力により召喚する! いでよ!



聾学校での初めてのワークショップ



作った映像をさっそく観てみよう

## いのちをつなぐ mini 映画祭 in 天栄村 おやこ映画づくりワークショップ

開催日：2014年11月30日  
会場：文化の森てんえい (福島県天栄村)  
参加者数：15人



映画が動いて観える仕組みです

■一食ワークショップに組み込む予定だったが、地元の若者が補助金を獲得して映画祭を開催することになり、独自開催となった。一食ワークショップと同様、映画のしくみミニ講座と天栄村の野菜を使ったコマドリ・アニメーションを行い、DVDを作成、配布した。

はじめまして、  
映画の時間です。



こども映画プロジェクト  
こども映画プロジェクト

3.7 (Sat) 9:00-17:00  
3.8 (Sun) 9:00-18:00

講師：富樫森

東北芸術工科大学  
小学生～高校生 30名  
1,000円

平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ事業

こどもと映画プロジェクト  
こどもワークショップ

開催日：2015年3月7日 [土] 8日 [日]

会場：東北芸術工科大学

参加者数：32人

講師：富樫森（『非・バランス』『おしん』監督）

■小学一年生から高校三年生の32名の参加者が4班に分かれ、「愛」をテーマに企画から撮影、編集、ポスター制作、上映までを行った。上映後に作品やメイキング映像をまとめたDVDと感想文集を作成し、参加者やスタッフに配布した。行政や大学と共同での初めての取り組み。



テーマは「愛」。企画を練り練り



いざ撮影！ ちょっとそこ見切れてるよ



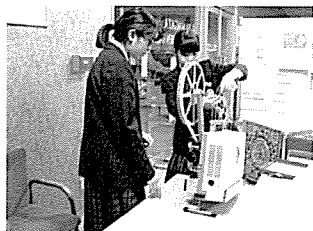
完成披露試写会。さてどんな仕上がりがかな



はじめての映画づくり。楽しかったね

職場体験受け入れ

■山形市内の中学校からの要請を受け、映画祭事務局にて職場体験を受け入れた。若年層に対する映画祭の広報も兼ねる。2006年から継続して定期的に受け入れを行っている。フィルムライブラリーでのフィルム保存について説明し、映写機の操作をレクチャーした。7月11日の金曜上映会〈フィルムのなかのやまがた：いざ蔵王へ！〉の上映作品を試写し、広報用のチラシを作成、印刷を行った。



自分たちで16mm映写機を操作



映画祭の歴史を取材

山形市立第四中学校（2名）

受入日：2014年5月14日 [水] ~16日 [金]

体験内容：資料整理、ドキュメンタリー映画鑑賞  
インタビュー体験、報告書作成など

山形市立蔵王第一中学校（3名）

受入日：2014年5月20日 [火] ~22日 [木]

体験内容：資料整理、映写機操作体験、  
上映作品視聴、広報チラシ作成および  
印刷など



映写室で上映会の準備



特製チラシのできあがり

インターンシップ生受け入れ

■山形大学および特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル「地域づくり体験型インターンシッププログラム」からの要請を受け、受け入れ承諾手続きを行った。しかし、いずれも参加希望学生が集まらず、結果受け入れを行わなかった。



## [3] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

### (1) ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス

■ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービスを市民に提供した。

ブース利用者 **154人** (前年比89.5%)

### (2) 作品貸出リスト普及と貸出推進

#### ◇県内での作品紹介・普及活動

■県内の各団体を直接訪問し、貸出可能な収蔵作品リストを通じ、上映促進を図った。特にスポーツドキュメンタリー『青春ララ隊』について特製チラシを作成し、スポーツ振興団体の全国会議等にて配布、作品内容、利用方法等の説明を行った。

#### ◇全国の作品貸出拡大

■公式ウェブサイトなどを通じ、日本国内及び海外へ作品貸出を呼びかけた。



『青春ララ隊』チラシ

年間貸出件数 **19件** (前年比82.6%)

年間貸出作品数 **33作品** (前年比126.9%)

貸出料総計 **1,092,000円** (前年比127.3%)

貸出先：北海道、新潟、神奈川、東京、愛知、大阪、兵庫、広島、沖縄などの  
映画祭、看護学校、美術系専門学校、大使館、自主上映団体

非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を制作者へ還元

【還元：12件】 (監督個人及び製作・配給会社/複数作品について権利を保持しているケースがあり、作品数と還元件数は一致しない)

### (3) 所蔵作品の補修・整理

■所蔵作品について、収蔵庫整理等の作業を行った。また、東南村山地区視聴覚教育協議会解体に伴い、昭和28年以降にアメリカ大使館から全国の視聴覚教育協議会に配布された教育映画USISフィルム(16mmフィルム)が25本寄贈されたことを受け、これをクリーニング、ナンバリングを行い、整理保管を行った。

### (5) 所蔵作品に基づく研究活動とサポート

#### 山形大学人文学部によるライブラリー収蔵作品を資料とした学術的研究の補助

■山形大学人文学部に発足した映像文化研究所の研究活動として、平成26年度からスタートした台湾ドキュメンタリー映画の研究について、研究資料として作品リスト及び各種資料の準備を行った。本研究には台湾文化、言語学などの研究者らが参加しており、今後論文をまとめた研究書籍が発刊される予定である。また、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催期間には、山形大学映像文化研究所主催、台北駐日経済文化代表処(台湾大使館)助成にて台湾ドキュメンタリー映画上映とシンポジウム、国際会議が開催されることとなっている。

## [4] 映像文化推進事業

平成26年度売上実績 **5,386,569円** (前年比110.9%)

■映像文化の推進を目的として、県内外各地に向けて自主上映の活性化を働きかける営業活動及び請負による映写業務等映画上映に関わる業務を展開した。また、そこでの関係の構築を通して、映画祭の広報宣伝を含めたPR活動を行った。本年度は、これまでの営業活動に加え、上映会活動による収益増を見込み、上映イベントのチケット販促に力を入れた。その結果として、売上実績は前年を上回ることができた。しかし、山形県内の視聴覚教育協議会の規模縮小（平成26年度を最後に解体）などにより、顧客相手先件数が減少したことに加え、人件費や車両維持費の増加により、全体収支は赤字となった。

### (1) 上映会事業

■映画・映像文化の振興と映画祭の認知度向上を目的として、[2] 山形国際ドキュメンタリー映画祭2015 開催準備の項にて言及した各種イベントを展開した。

- 「怪異の表象～フェイク・ドキュメンタリーを楽しむ～」 チケット売上額：329,400円
- 「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち」 チケット売上額：1,069,100円
- ※「喜劇大行進 2日間まるっと名作映画」については、山形市中央公民館との間で運営全般を請け負った形となるので映写業務に含まれている。

### (3) 映写業務

■所有する機材やスタッフの技術力を活かし、有料にて映写業務を請負った。

- 映写請負業務件数：32件

### (2) 上映サポート事業

■映画「夢は牛のお医者さん」ほか、各種映画作品を県内各地に紹介し、上映促進をサポートした、上映会を設定した箇所については設定手数料を受け取った。

- 上映会設定数：6件

### (4) 映像ソフト・機器普及事業

■視聴覚ライブラリー等に対し、団体向著作権処理済DVDソフトを販売した。

- 映像ソフト販売件数：17件

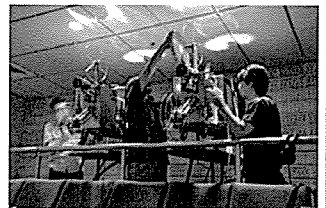
### (5) その他

■映写機およびプロジェクタ等の機材の修理、メンテナンスを有料にて行った。

- 機材修理・メンテナンス件数：13件



大会場にも対応した映像投影



精度の高い35mm映写を目指す

## [5] ネットワーク構築事業

### (1) ドキュメンタリー作品の上映推進

■様々な地域の方々と連携し、ドキュメンタリー作品の上映機会を創出することにより、山形国際ドキュメンタリー映画祭への関心を高めることを目的として推進活動を行った。



#### ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形 in 東京 2014

期間：11月15日 [土] ～12月19日 [金]

主催：山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局（シネマトリックス）

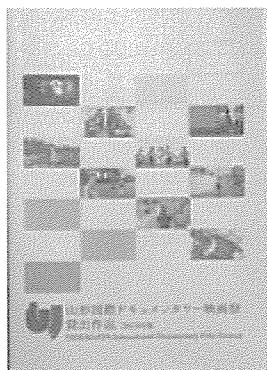
◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 上映作品を中心に、東京の映画館を会場として約100本近くをおおよそ1ヶ月に渡って上映。上映作品監督を招き、連日トークショーも開催。インターナショナル・コンペティション、アジア千波万波作品はもちろん、「アラブの春」特集をさらに拡大させた特集上映も行った。準備年における恒例企画であり、首都圏の観客に対して、本映画祭を周知する絶好の機会となっている。



#### その他

開催日	作品名	場所	主催
4/12～13	『東電テレビ会議』	フォーラム山形	上映実行委員会
4/19～25	『天に栄える村』	フォーラム山形	上映実行委員会
7/12	『標的の村』	長井市	上映実行委員会
9/19	『天に栄える村』	河北町	上映実行委員会
10/3～5	『山の恵みの映画たち』	フォーラム山形	上映実行委員会
10/9	『夢は牛のお医者さん』	木宮内小	上映実行委員会
10/25～31	『ワーカーズ』	フォーラム山形	上映を進める会
11/3	『夢は牛のお医者さん』	飯豊町	上映実行委員会
11/30	『天に栄える村』 『ある精肉店のはなし』	文化の森 てんえい	いのちをつなぐmini 映画祭
12/6	『標的の村』	上山市	上山平和を伝える会
——	『よみがえりのレシピ』	福島県福島市	上映実行委員会

### (2) 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー及び収蔵作品についての情報発信



■昨年度に引き続き、山形市が主催する施設見学会の受け入れを行った。また、所蔵作品についての情報を公式ウェブサイト（HTML版、PDF版）に掲載し、必要に応じて作品貸出リストを郵送した。

※関連項目は [4] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業の項目を参照。

作品貸出リスト [2014年版]

### (3) 映画祭ネットワークの構築

#### ◇国内活動の成果

■平成26年度は、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開催に向けた準備業務のほか、イベントや多様な上映会、ワークショップ、被災地上映等も含め様々な取り組みを行ったが（詳細は前述のとおり）、意識的に市民や行政、大学等との実行委員会や協力体制をつくりながら、これらの活動を遂行したことで、事業の広がりや新しい成果が生まれた。また、県内外の市民や団体の自主上映について、主に広報やチケット販売協力等を通じて応援することで、多様なドキュメンタリー作品の上映普及を促進させることができた。他団体との連携による主催事業の充実、そして応援事業の活性化による新しいネットワーク構築が、今後も大きなテーマとなっていく。映像文化の多様性は、様々な団体や市民の「取り組みの支え合い」の中でこそ継続性が確保される。今後も、そのことを肝に銘じて取り組みをおこなっていく所存である。また、当法人が製作・上映普及に協力したドキュメンタリー映画『よみがえりのレシピ』が、2015年ミラノ万国博覧会日本館会場で2日間上映されることが内定した。山形の在来野菜を通して、日本の食文化を世界に伝える契機となるだろう。これも山形の映像文化ネットワークの成果のひとつと考える。

#### ◇海外映画祭への参加

- 海外映画祭へ積極的に参加し、交流を深め、情報交換や人脈作りに努めた。  
※審査員招聘による参加については、渡航費及び滞在費は現地映画祭持ち。

##### ○ヴィジョン・デュ・レー映画祭（スイス・ニヨン）

期間：4月30日～5月3日（4日間）

内容：作品情報の収集、映画祭紹介セミナー出席、映画祭作品マーケット Doc Outlook-International Market への参加・視察を行った。

##### ○オーバーハウゼン国際短篇映画祭（ドイツ・オーバーハウゼン）

期間：5月4日～6日（3日間）

内容：作品情報の収集、映画祭作品マーケット視察、映画祭オンライン・アーカイブリサーチを行った。

##### ○ミラノ大学・ドキュシティ映画祭（イタリア・ミラノ）

期間：5月8日～15日（1週間）

内容：YIDFF 2013 セレクション（NAC、3.11関連作品など）の上映・プレゼンテーション、アーカイブプロジェクトの紹介プレゼンテーション、作品情報の収集を行った。またボローニャにて映画推進担当の市経済局長とボローニャの映画関係者と面談し、山形とボローニャにおける映画文化交流の可能性について話を伺った。

##### ○台湾国際ドキュメンタリー映画祭（台湾・台北）

期間：10月10日～17日（1週間）

内容：長編ドキュメンタリー部門審査員として招待を受け、作品審査と授与式に参加した。小川紳介特集等もあり、期間中の様々な場面で日台映画人の交流の一端を担った。

## [6] 出版事業

### (1) 映画祭関連の発行物の普及・販売

■映画祭関連の発行物の全国的な普及や販売を行い、映画祭への理解者を増やした。

#### ◇過去書籍の紹介と販売

■映画祭ホームページ等で、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 関連の出版物をはじめ、過去の映画祭関連出版物の普及・販売をすることで映画祭への理解者を増やすことを目的としている。また「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」開設記念のイベントで関連書籍の販売を行うなど、積極的な活用も継続して行っている。

#### ◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 公式カタログ及び2013記録集の普及

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 にて発行した公式カタログ、記録集の販売普及を行った。

書籍販売実績 **117,300円** (前年比11.0%)

#### 【書籍別販売内訳】

- 『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 公式カタログ』
- 『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 記録集』
- 『やまがたと映画』
- 『ともにある Cinema with Us』
- 『シマ／島、いま——キューバから・が・に・を見る』
- 『回到一圏：日台ドキュメンタリーの12年後』
- 『未来の記憶のために——クリス・マルケルの旅と闘い』
- 『映画に（反）対して——ギー・ドゥポール特集』
- 『ドラマティック・サイエンス！ ～やまがた科学劇場～』ほか



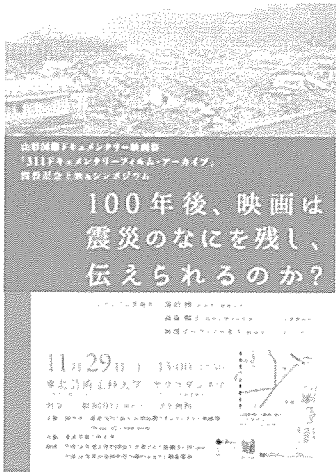
## [7] 映像発掘研究事業

- 山形県立博物館より移管されたブラジル移民に関する16mmフィルムのデジタル化を行った。
- 山形県小国町の依頼により、小玉川小学校の記録映像（8mm、VHS／昭和40～50年代に撮影されたもの）29本についてデジタル化・リスト化作業を行った。
- 山形市の依頼により、昭和50年代の広報映画2本のデジタル化作業を行った。

## [8] YIDFF 311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ事業

■平成26年度公益社団法人企業メセナ協議会GBFund、平成26年度公益信託荘内銀行ふるさと創造基金から助成を受け、4月よりワーキングチームを立ち上げ準備を進めていた「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業を、11月に開設した。本事業は、2011年の東日本大震災を主題とした記録映画、およびそれらの作品に関するあらゆる情報を蒐集・保存し、専用のウェブサイトを立ち上げ、災害・復興に関わる国内外の知見の発展に貢献し得る、将来に渡っての資料提供の場となることを目的としている。



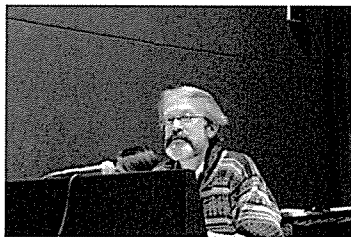


■11月29日〔土〕には、東北芸術工科大学との共催で、本アーカイブの開設記念上映・シンポジウム「100年後、映画は震災のなにを残し、伝えられるのか」を開催。『宮戸・復興の記録 2011～2013』の上映と、震災とアーカイブ、映画史について執筆・研究を続けている識者3名が登壇した、同タイトルのシンポジウムを行った。参加者は50名強集まり、研究者から一般の関心の高い市民まで様々で、討議の場では多くの質問や意見が出された。

開設以降、海外の研究者数人がアーカイブのある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー（山形市平久保）を訪れ、作品の視聴をしているほか、海外からのデータベースへのアクセスも増加している。

◇「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」の事業内容

- (1) 山形市平久保にある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー内に「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」を設置。東日本大震災に係わる記録映画の保存用上映素材を継続して蒐集、永続的に保存する。
- (2) 広報物など作品関連資料がある場合、それらをライブラリー館内で保存・閲覧可とするとともに、館内の視聴用ビデオブースにて作品の個人視聴の場を提供している。
- (3) 作品のデータベースとして機能する専用ウェブサイトを開設。  
(<http://www.yidff311docs.jp>)  
日英両言語のサイトとし、世界各地からの作品情報へのアクセスを可能にしている。作品情報は今後も常時蒐集し、更新される。



基調講演を行うマーク・ノーネス氏



登壇者たちから多くの貴重な意見が

[9] 映像文化創造都市推進活動

■当法人は、創造都市ネットワークジャパン（CCNJ）加盟を含め、昨年度から今年度にかけて、会議や講演会への参加・交流・人脈構築、および創造都市への理解を深める活動を行った。

- 2014年8月7日・8日 「創造都市政策セミナー in 札幌市」に参加  
創造都市についての知識や国内でのネットワークを広げるため。  
高橋事務局長、横倉山形市文化振興課課長補佐、参加。
- 2014年10月31日・11月1日 「創造都市ネットワーク日本 自治体サミット」に参加  
創造都市についての知識や国内でのネットワークを広げるため。  
加藤副理事長、参加。
- 2015年12月17日 佐々木雅幸教授のティーチイン開催「映像文化創造都市・山形を目指して」  
主催：山形市役所 山形市役所職員内部学習会として。
- 2015年3月3日～5日 イギリス・ブラッドフォード「映画創造都市・国際サミット」参加  
映画創造都市の取り組みを視察・学習・交流を行った。  
大宮山形市文化振興課長、藤岡映画祭理事、参加。



## [10] 映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力

■東北芸術工科大学が日本学術振興会による科学研究費助成に採択された「デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究」について、基礎的研究調査の支援を行った。主には、デジタルシネマ制作環境の国内外での調査・アンケート送り先の選定・アンケート集計、報告書作成などである。研究プロジェクトは4ヶ年計画であり、平成26年度はその2年目にあたる。残りの2年も継続して協力を行っていく予定である。

## [11] 正会員・賛助会員の拡大および寄付募集活動

### (1) 正会員・賛助会員の拡大（組織基盤の充実）

■当認定NPO法人の賛助会費が寄付としても評価されるため、今年度は賛助会員の拡大に努めたことにより、前年度に比べ成果が得られた。来年度は映画祭開催年であり、会員拡大の好機である。今後も様々な方法で新規会員獲得に努めていく。

**正会員数 97件** [団体31・個人66] (前年比93.3%)

**賛助会員数 75件** [団体11・個人64] (前年比119%)

※平成27年3月31日現在

### (2) 寄付募集・広報活動

■認定NPO法人には1年間に3,000円以上の寄付を100件以上確保する条件が付されている。今年度は、賛助会費件数と寄付件数を合わせて該当条件を満たしている。まだ開拓の余地は充分にあり、次年度は映画祭開催もあり、注目度も高まるため、ホームページ上での広域的な呼びかけ強化や、県内外での広報イベントの際の直接的な呼びかけを行っていく。

**寄付総額 421,423円** [団体4・個人33] (前年比122%)

### (3) 会報の発行

■本年度は、1回、当認定NPO法人の会報を500部発行し、正会員・賛助会員に送付したほか、協賛企業や関係者等に訪問配布を行った。内容は、映画祭開催に向けたプレイベントについての報告、「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」の設立や関連行事について。また、映像文化創造都市に向けた取り組み等である。



「アンド・ユー 2014 年号」

□会報発行部数：500部

### (4) 認定NPO法人認証後の諸手続き

■認定NPO法人認証後の手続きについて、その流れは以下の通り。

◇5/18 総会にて定款変更について（組織名称変更）承認される

→6/6 山形市へ定款変更認証申請を提出→8/18 定款変更認証

→8/20 法務局へ名称の変更登記申請書を提出（8/19 名称変更、8/20 登記完了）

→8/29 山形市へ定款変更登記完了提出書を提出

→その後、山形市、山形県、税務署ほか関係各所へ名称変更届出を行った。

## [12] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務

■財団法人山形コンベンションビューローより、山形ビッグウイング3Fの山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリーの管理業務を受託し、委託業務を遂行した。また財団法人山形コンベンションビューローとの共催により、自主事業として「子ども映画教室」を実施した。

館内利用者 **1,425人** (前年比115.8%)



第6回山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー〈子どもの映画教室〉  
「探してみよう、撮ってみよう、観てみよう」

開催日：2015年3月22日

会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

参加者数：9人

■毎年恒例となったライブラリーでの映画教室も今年で6回目。これまで同様のフィルムライブラリー探検（収蔵庫、映写室見学）に加え、ビッグウイングの中にある様々な「丸」を見つけてコマドリ・アニメーションの制作を行った。完成後は試写室にて鑑賞。



まずは映画のしくみを学びます



ベストな瞬間を狙って、パシャ！



どんな画が出来るのか、まだわかりません



上映の前に、舞台あいさつ

# 収 支 計 算 書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
<b>【Ⅰ 収入の部】</b>				
1 会 費 収 入	[ 2,620,000 ]	[ 2,590,000 ]	[ 30,000 ]	
正 会 員 会 費 収 入	1,620,000	1,600,000	20,000	
賛 助 会 員 会 費 収 入	1,000,000	990,000	10,000	
2 寄 付 金 収 入	[ 450,000 ]	[ 421,423 ]	[ 28,577 ]	
一 般 寄 付 金	450,000	421,423	28,577	
3 事 業 収 入	[ 8,411,000 ]	[ 7,199,902 ]	[ 1,211,098 ]	
映 画 祭 事 業	468,000	445,128	22,872	
映 像 文 化 推 進 事 業	6,353,000	5,416,569	936,431	
上 映 会 ・ ラ イ ブ ラ リ ー 事 業	1,520,000	1,322,650	197,350	
そ の 他 事 業	70,000	15,555	54,445	
4 補 助 金 等 収 入	[ 50,900,000 ]	[ 50,900,000 ]	[ 0 ]	
山 形 市 補 助 金	50,000,000	50,000,000	0	
そ の 他 助 成 金 収 入	900,000	900,000	0	
5 被 災 地 支 援 事 業	[ 780,000 ]	[ 761,000 ]	[ 19,000 ]	
事 業 収 入	32,000	13,000	19,000	
助 成 金 収 入	748,000	748,000	0	
6 受 託 収 入	[ 2,056,000 ]	[ 2,055,780 ]	[ 220 ]	
経 常 収 入 合 計	65,217,000	63,928,105	1,288,895	
<b>【Ⅱ 支出の部】</b>				
1 事 業 費	[ 56,787,000 ]	[ 55,361,189 ]	[ 1,425,811 ]	
(1) 映 画 祭 事 業 費	( 43,053,000 )	( 42,808,065 )	( 244,935 )	
給 料	16,358,000	16,290,550	67,450	
臨 時 雇 賃 金	1,423,000	1,417,773	5,227	
福 利 厚 生 費	2,711,000	2,675,942	35,058	
旅 費 交 通 費	500,000	488,054	11,946	
通 信 運 搬 費	626,000	565,131	60,869	
消 耗 品 費	25,000	1,215	23,785	
印 刷 製 本 費	360,000	345,060	14,940	
賃 借 料	160,000	150,640	9,360	
諸 謝 礼 金	100,000	90,000	10,000	
委 託 費	20,790,000	20,783,700	6,300	
(2) 映 像 文 化 推 進 事 業 費	( 6,953,000 )	( 6,331,921 )	( 621,079 )	
給 料	1,735,000	1,714,750	20,250	
福 利 厚 生 費	319,000	284,776	34,224	
旅 費 交 通 費	300,000	201,900	98,100	
通 信 運 搬 費	66,000	36,647	29,353	
消 耗 品 費	200,000	161,825	38,175	
印 刷 製 本 費	110,000	107,646	2,354	
賃 借 料	2,300,000	2,287,516	12,484	
保 険 料	130,000	113,390	16,610	
諸 謝 礼 金	140,000	140,000	0	
交 際 費	50,000	49,590	410	
委 託 費	128,000	118,154	9,846	
ソ フ ト 販 売 仕 入 費	700,000	551,427	148,573	
映 像 機 器 仕 入 費	140,000	0	140,000	
租 税 公 課 金	35,000	14,300	20,700	
負 担 金	600,000	550,000	50,000	
(3) 上 映 会 ・ ラ イ ブ ラ リ ー 事 業 費	( 3,945,000 )	( 3,713,554 )	( 231,446 )	
給 料	1,737,000	1,737,000	0	
福 利 厚 生 費	333,000	304,589	28,411	
旅 費 交 通 費	160,000	154,132	5,868	
通 信 運 搬 費	170,000	107,468	62,532	
消 耗 品 費	50,000	12,645	37,355	
印 刷 製 本 費	30,000	9,926	20,074	
賃 借 料	500,000	476,220	23,780	

科 目		予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
	保 險 料 金 費	5,000	1,000	4,000	
	諸 謝 礼	680,000	652,000	28,000	
	委 託 事 業 費	280,000	258,574	21,426	
(4)	ラ イ ブ リ ー 受 託 事 業 費	( 2,056,000 )	( 1,974,146 )	( 81,854 )	
	臨 時 雇 賃 金 費	1,732,000	1,684,400	47,600	
	福 利 厚 生 費	256,000	242,471	13,529	
(5)	被 災 地 支 援 事 業 費	( 780,000 )	( 533,503 )	( 246,497 )	
	消 耗 品 費	68,000	47,275	20,725	
	会 議 費	10,000	4,596	5,404	
	旅 費	110,000	81,926	28,074	
	通 信 運 搬 費	20,000	10,000	10,000	
	消 耗 品 費	90,000	75,331	14,669	
	印 刷 製 本 費	30,000	5,570	24,430	
	賃 借 料	210,000	131,080	78,920	
	諸 謝 礼	310,000	225,000	85,000	
2	管 理 費	[ 10,730,000 ]	[ 10,462,678 ]	[ 267,322 ]	
	給 料 費	4,916,000	4,915,800	200	
	福 利 厚 生 費	1,366,000	1,318,232	47,768	
	会 議 費	15,000	9,800	5,200	
	旅 費	690,000	636,670	53,330	
	通 信 運 搬 費	300,000	282,515	17,485	
	消 耗 品 費	238,000	216,877	21,123	
	印 刷 製 本 費	85,000	66,411	18,589	
	修 繕 費	50,000	25,261	24,739	
	水 道 光 熱 費	484,000	462,539	21,461	
	賃 借 料	906,000	891,500	14,500	
	保 險 料	20,000	16,400	3,600	
	租 税 公 課	844,000	826,000	18,000	
	委 託 費	646,000	638,400	7,600	
	雑 費	170,000	156,273	13,727	
	経 常 支 出 合 計	67,517,000	65,823,867	1,693,133	
	経 常 収 支 差 額	△ 2,300,000	△ 1,895,762	△ 404,238	
【Ⅲ その他資金収入の部】					
1	開 催 準 備 特 定 預 金 取 崩 収 入	[ 2,300,000 ]	[ 2,300,000 ]	[ 0 ]	
	その他資金収入合計	2,300,000	2,300,000	0	
【Ⅳ その他資金支出の部】					
1	特 定 預 金 へ 支 出	[ 1,435,272 ]	[ 1,435,272 ]	[ 0 ]	
	その他資金支出合計	1,435,272	1,435,272	0	
	当 期 収 支 差 額	△ 1,435,272	△ 1,031,034	△ 404,238	
	前 期 繰 越 収 支 差 額	1,435,272	1,435,272	0	
	次 期 繰 越 収 支 差 額	0	404,238	△ 404,238	

貸借対照表

平成27年3月31日現在

一般会計

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>【資産の部】</b>		
流動資産		
現金預金	1,155,408	
貯蔵品	983,594	
未収金	715,118	
流動資産合計		2,854,120
固定資産		
その他の固定資産		
建物	1,151,425	
車両運搬具	1	
什器備品	3	
開催準備特定預金	5,154,775	
その他の固定資産合計	6,306,204	
固定資産合計		6,306,204
資産合計		9,160,324
<b>【負債の部】</b>		
流動負債		
未払金	1,445,802	
前受金	20,000	
預り金	486	
流動負債合計		1,466,288
負債合計		1,466,288
<b>【正味財産の部】</b>		
正味財産		7,694,036
(うち当期正味財産増減額)		(△ 2,008,692)
負債及び正味財産合計		9,160,324





# 財 産 目 録

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,155,408	
普通預金1 山形銀行 山形市役所支店	955,286	
普通預金2 山形銀行 山形市役所支店	77,122	
ゆうちょ銀行 振替口座	123,000	
普通預金 荘内銀行 山形営業部	0	
貯蔵品 出版書籍 他	983,594	
未収金	715,118	
映像文化推進事業	463,803	
フィルムライブラリー受託金 (山形コンベンションビューロー)	171,315	
作品貸出料	60,000	
正会員会費	20,000	
流動資産合計		2,854,120
2 固定資産		
建物 事務所内装	1,151,425	
車両運搬具 ニッサンAD	1	
什器備品 (プロジェクター3台)	3	
開催準備特定預金 普通預金 山形銀行 山形市役所支店	5,154,775	
固定資産合計		6,306,204
資産合計		9,160,324
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,445,802	
委託費	356,400	
フィルム貸出料製作者還元分	310,875	
臨時雇賃金	289,353	
社会保険事業主負担分	249,046	
映像文化推進事業	103,680	
その他	136,448	
前受金 (会費)	20,000	
預り金 (送料)	486	
流動負債合計		1,466,288
負債合計		1,466,288
正味財産		7,694,036

